備前市立中・高等学校生徒のみなさんへ

２学期のスタートです。
毎日、テレビや新聞などで「新型コロナウイルス感染症」のニュースが伝えられています。みなさんの中には、とても不安な気持ちになっている人もいるかもしれません。
そうした中、みなさんは、きちんと手洗い、マスク等で感染予防に取り組み、時に楽しみなことを我慢しながらも、前向きに学校生活に取り組んでくれています。みんなのために、何ができるかを考えて行動できているということは、本当にすばらしいことだと思います。
ただ、今、日本ではとても悲しいことが起こっているのを、みなさんは知っていますか？それは、「新型コロナウイルス感染症」にかかった方やその家族、病院で働いている方など特定の職業に携わる方への差別やいじめです。そこで、私からみなさんに次の３つのことをお願いします。

○差別やいじめを絶対にしないようにしよう

「新型コロナウイルス感染症」は誰もがかかる可能性がある病気です。みなさんは風邪をひいたという理由で、お友だちを責めたり差別したりしませんね。しかし、強い不安は、時に人の正しい判断力を奪ってしまいます。不安や心配に心の自由をうばわれ、人を傷つけてしまうことは、とても悲しいことです。近い将来必ず開発される新型コロナウイルス感染症の特効薬も、さすがに一度こわれた人間関係までは治すことができません。
また、感染したことを責められる地域では、体調が悪くても病院に行くかどうかなやんでしまう人が増え、余計に感染が広がってしまうことも考えられます。
みなさんが、こういう時こそ相手の立場に立って考えられる人であってくれると信じています。

○確かでない情報を広めないようにしよう

みなさんは、今回の「新型コロナウイルス感染症」をめぐって、たくさんの不確かな情報が世（よ）の中を混乱させたことを覚えていますか？
「お店から〇〇がなくなるらしい」「感染予防に□□がいいらしい」
こうした不確かな情報は、世の中の不安をより大きくするだけでなく、人と社会との信頼関係までこわしてしまうことがあります。
みなさんが、自分の一言の影響を想像することのできる人であってくれると信じています。

○困ったときには誰かに相談しよう

わたしたちのだれもが、「新型コロナウイルス感染症」と無関係ではありません。
しかし、だからこそ私たちは全員がチームであり、誰もが一人きりではないのです。
ですからぜひ、不安なとき、悲しい思いをしたときは先生やおうちの人に相談しましょう。
もし、それが身近な人に相談しにくいことならば、参考資料にある相談窓口も活用してください。
みなさんが、人も自分も大切に、心も体も健やかに成長してくれることを願っています。

備前市教育委員会　教育長　奥田　泰彦

保護者の皆様へ

平素から、備前市の学校教育にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。
また、ご家庭でも新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでくださっていることに、改めて感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の蔓延は、この病気が感染症であることから不安が増大しやすく、医療関係者や感染者、回復者とその家族、特定の国の人や海外から帰国された人などに対する根拠のない偏見や差別、また、これらの人たちが通学する学校、勤務する職場等に対する誹謗・中傷などの人権侵害が、全国各地で起きていることが報道されています。このような不当な差別や排除等の人権侵害により、人を傷つけることも、傷つけられることも、あってはならない、許されないことだと考えております。

これらの状況を踏まえ、備前市立学校においては、子どもたちに新型コロナウイルス感染症の感染予防だけでなく、人権教育の充実にも努めているところです。

つきましては、各ご家庭におかれましても、日ごろから感染者を責めることはよくないという意識を子どもたちがもつことができるよう、機会をとらえて家族で正しい情報を共有し、新型コロナウイルス感染症に関連する人権への配慮について、SNS等の利用の留意点も含めてお子様と話し合っていただきますよう、お願い申し上げます。

現在、世界中の研究者による研究が進んでおり、そう遠くない将来に新型コロナウイルス感染症と共存する世界が訪れることが予想されます。しかしながら、それまでの間においても、子どもたちの豊かな学びの場を守ることはとても重要です。ご心配をおかけすることもあるかもしれませんが、保護者の皆様におかれましては、今しばらく、学校における持続可能な感染症対策と教育活動の両立について、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

今後も、備前市の全ての子どもたちが、豊かな人間性を身に付け、自分を高めるとともに、他者及び環境と共に生きることができるように自分自身を確立していくことを目指し、教育委員会、学校、地域・家庭が一丸となって、子どもたちを支えていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

備前市教育委員会　教育長　奥田　泰彦

文部科学省

児童生徒等や学生の皆さんへ

新型コロナウイルスが広がってから、皆さんは、学校はどうなるのだろう、この先どうなるだろうと、不安だったのではないでしょうか。新しい学期を迎えるに当たって、皆さんに伝えたいことがあります。

まず、感染症にかからないようにするには、いくつかの方法があります。すでに皆さんが取り組んでいるように、話をするときにはマスクをしたり、手を洗ったり、具合が悪い場合には学校を休んだりしてもらうことです。そして何より、健康的な生活を送ることが大切です。それでも、これまでも皆さんは風邪をひいたり、インフルエンザになったりしました。今はさらに新型コロナウイルスが課題になっています。

この三つは、症状がよく似ています。ですから、今後、皆さんの誰もがこうした症状を経験することがあるでしょう。具合が悪い人の中には、新型コロナウイルスに感染したと診断される人も身近な人の中から出るかもしれません。もちろん、それが友達だと分かったら自分は大丈夫かなと不安になることもあるでしょう。

新型コロナウイルスには誰もが感染する可能性があります。感染した人が悪いということではありません。学校やクラスの中で感染することは悪いことだという雰囲気ができてしまうと、新型コロナウイルスに感染したと疑われることをおそれて、具合が悪くなっても、その後は言いだしにくくなったり、病院に行くのが遅くなったりしてしまいます。そうすると、さらに皆さんの地域で感染が広がってしまうかもしれません。

感染した人や症状のある人を責めるのではなく、思いやりの気持ちを持ち、感染した人たちが早く治るよう励まし、治って戻ってきたときには温かく迎えてほしいと思います。もし、自分が感染したり症状があったりしたら、友達にはどうしてほしいかということを考えて行動してほしいと思います。

すでに、感染した人達が心ない言葉をかけられたり、扱いをされたりしているという事例が起きています。こうしたことが皆さんの周りでも起きないように、皆さんにも協力してほしいのです。

また、高齢者や病気がちの人は、感染すると症状が重くなってしまう危険があります。自分は元気だから大丈夫ということではなく、そのような人たちに感染させることがないよう、思いやりの気持ちを持ってほしいと思います。

新型コロナウイルス感染症が広がり、皆さんの日々の生活は一変したと思います。
以前のようには、友達と会いにくくなり、スポーツや文化に触れる機会も少なくなり、将来への不安やストレスを抱えている人も多いでしょう。

これまでも、私たち人間は、新型コロナウイルスのような新しい病気を経験してきました。そのたびに、世界中の研究者が病気の原因を探り、予防方法を見つけたり、薬の開発をしたりしてきました。そうして、私たちは、病気と共存していく。この歴史は繰り返されています。新型コロナウイルスも研究が進んで解明されれば、予防と治療ができるようになり、新たな共存生活が始まります。

私たち大人は、皆さんの応援団として、将来の見通しを持ち、未来の社会の担い手である皆さんが学ぶ機会、遊ぶ機会、交流する機会を最大限作っていきます。それまで、皆さんは今自分ができる予防をしっかり行い、将来の目標を持ち、家庭や学校で日々の学びを続けてほしいと願っています。

令和二年八月

文部科学大臣　萩生田　光一

文部科学省

保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができておりますのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多いと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気が広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思います。

令和二年八月

文部科学大臣　萩生田　光一

参考資料

文部科学省

新型コロナウイルス感染症を理由とした差別や偏見などでつらい思いをしたら

児童生徒等の皆さんの不安や悩みを受け止める相談窓口は、下記の通りです。一人で苦しまず、ぜひ利用してみて話をしてみてください。

- 24時間子供SOSダイヤル　0120-0-78310
  https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1306988.htm

- 子どもの人権110番≪法務省≫　0120-007-110
  http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken112.html

- 都道府県警察の少年相談窓口
  https://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/syonen/soudan.html

- いのちの電話の相談　0120-783-556
  一般社団法人日本いのちの電話連盟
  https://www.inochinodenwa.org/

- チャイルドライン（18歳までの子供が対象）　0120-99-7777
  https://childline.or.jp/

- 新型コロナこころの健康相談電話　050-3628-5672
  一般社団法人日本臨床心理士会、一般社団法人日本公認心理師協会
  http://www.jsccp.jp/info/infonews/detail?no=730

文部科学省ホームページより作成